



DEN

No.28

2021.11.30

発行

作業療法を伝える
NEWS&COMMUNICATION

公益社団法人 大分県作業療法協会 広報誌



心豊かに作業療法

CONTENTS - テーマ: コロナ禍における作業療法

1 教えて! 作業療法
「フレイルとは?」

3 まんが作業療法物語
～コロナ禍における退院支援編～

8 施設紹介

- 大分県社会福祉事業団 障害者支援施設 大分県のぞみ園

9 フレッシュマンインタビュー

- 一ノ宮脳神経外科病院 — 篠原 愛
- 帰巖会みえ病院 — 谷口 元基

11 活動取材ノート
「第24回 大分県作業療法学会」

12 以心 DEN 心

13 活動報告

- 大分中村病院 — 赤坂 南津実
- ケアガーデンおおつか — 永尾 千文

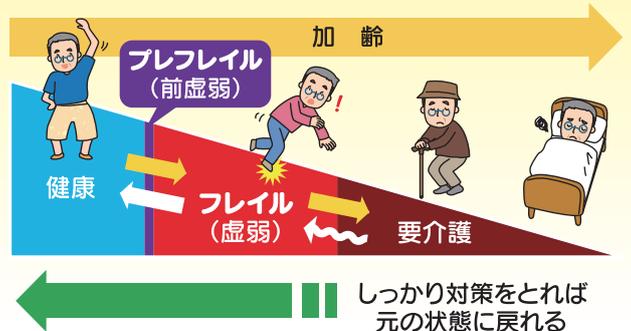


教えて！ 作業療法

フレイルとは？

加齢とともに、体や心のはたらき、社会的なつながりが弱くなった状態を指します。そのまま放置すると、要介護状態になる可能性があります。

フレイルは、早めに気づいて適切に行動することにより、健康な状態に戻ることができます。



コロナ禍における生活の変化により、フレイルになる方が増えています。みなさんは大丈夫でしょうか？ 今回の「教えて作業療法」は、大分県が発行しているフレイルチェックシートを掲載しています。大分県のホームページにも掲載されています。ぜひ、チェックしてみてください。

大分県ホームページ：<https://www.pref.oita.jp/soshiki/12300/frailcheck.html>

スマートフォン、
タブレット端末で
チェックできます！！



あなたのフレイル度をチェックしてみましょう！

1. 日常生活

1 車の運転、もしくはバスや電車を利用して1人で外出して**いない**

2 日用品の買い物を**していない**

3 1人で預貯金の**出入れをしていない**

4 友人の家を**訪ねていない** (家族、親戚は含まない)

5 家族や友人の相談に乗って**いない** (電話での相談も含む)

チェックは **個**

2. 運動機能

6 階段をのぼるのに**手すりが必要**

7 椅子から立ち上がる時**手すりや杖が必要**

8 15分位**続けて歩いていない** (杖使用の有無は問わない)

9 この1年間に**転んだことがある**

10 転倒に対する**不安が大きい**

チェックは **個**
3個以上チェックがついたら**運動(体操)**を心がけましょう！

3. 栄養状態

11 6か月で**2~3kg以上、体重が減ったまたは増えた**

12 食べる**ことが楽しくなくなった**

チェックは **個**
どちらかにチェックがついたら**食事(栄養)**に気をつけましょう！

4. 口腔機能

13 以前に比べて固い物(たくあんやさきいかなど)が食べにくくなった
※半年前から変化がなければ含まない。

14 お茶やみそ汁、酢の物等でむせることがある

15 お口のかわきが気になる

チェックは **個**

2個以上チェックがついたら **お口の健康**に気をつけましょう!



5. 活動

16 週に1回以上、家族以外の人と会う場所に出かけていない

17 昨年と比べて外出の回数が減っている

チェックは **個**

6. 認知機能

18 周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあるとされる

19 自分で電話番号を調べて、電話をかけていない

20 今日が何月何日かわからない時がある

チェックは

脳と心の活性化で認知症を予防しましょう。

脳を活性化するには?

- ① 適度の運動
- ② 余暇を楽しむ
- ③ 新しいことに挑戦する
- ④ 楽しくしゃべり、笑う



7. こころの状態

ここ2週間の生活は それ以前 と比べて…

21 毎日の生活に充実感がない

22 これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった

23 楽にできていたことがめんどろに感じる

24 自分が役に立つ人間だと思えない

25 わけもなく疲れたような感じがする(農業や家事での疲労は含まない)

チェックは **個**

①～②⑤ (25個中)

個

あなたのフレイル度は…

- 4～7個 … **プレフレイル(前虚弱)**
- 8個以上 … **フレイル**

新型コロナウイルスが流行し、人や社会との関わりが減り生活が大きく変化したことで、フレイルになってしまう人が多くなってきているよ。いろんな人と会話をして、食事をして、一緒に遊んで、旅行をして…当たり前だと思っていた生活は健康的な生活をするためにはとても大事なことだったんだね。次号は、フレイル特集を企画中だよ！お楽しみに！！



まんが

作業療法物語

コロナ禍における退院支援編

Aさんは数年前に脳出血により左半身麻痺となり、介護保険サービスを利用しながら奥さんと2人暮らしをしていました

1ヵ月前、脳出血を再発し麻痺の後遺症が重く残ってしまいました。移動や日常生活をするにも介助が必要な状態であり、リハビリを継続するため療太さんの勤める病院に入院となりました

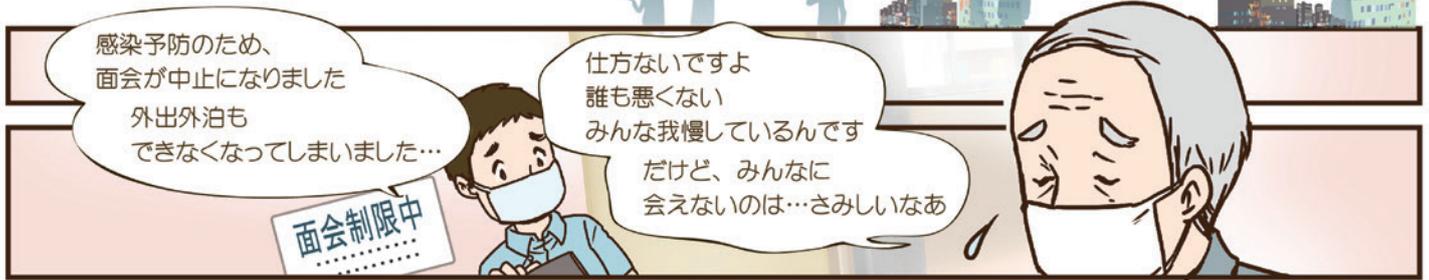


療太は「孫の野球の試合を見に行けるようになりたい」という A さんの希望に寄り添い、共に「リハビリ」に励んでいきました

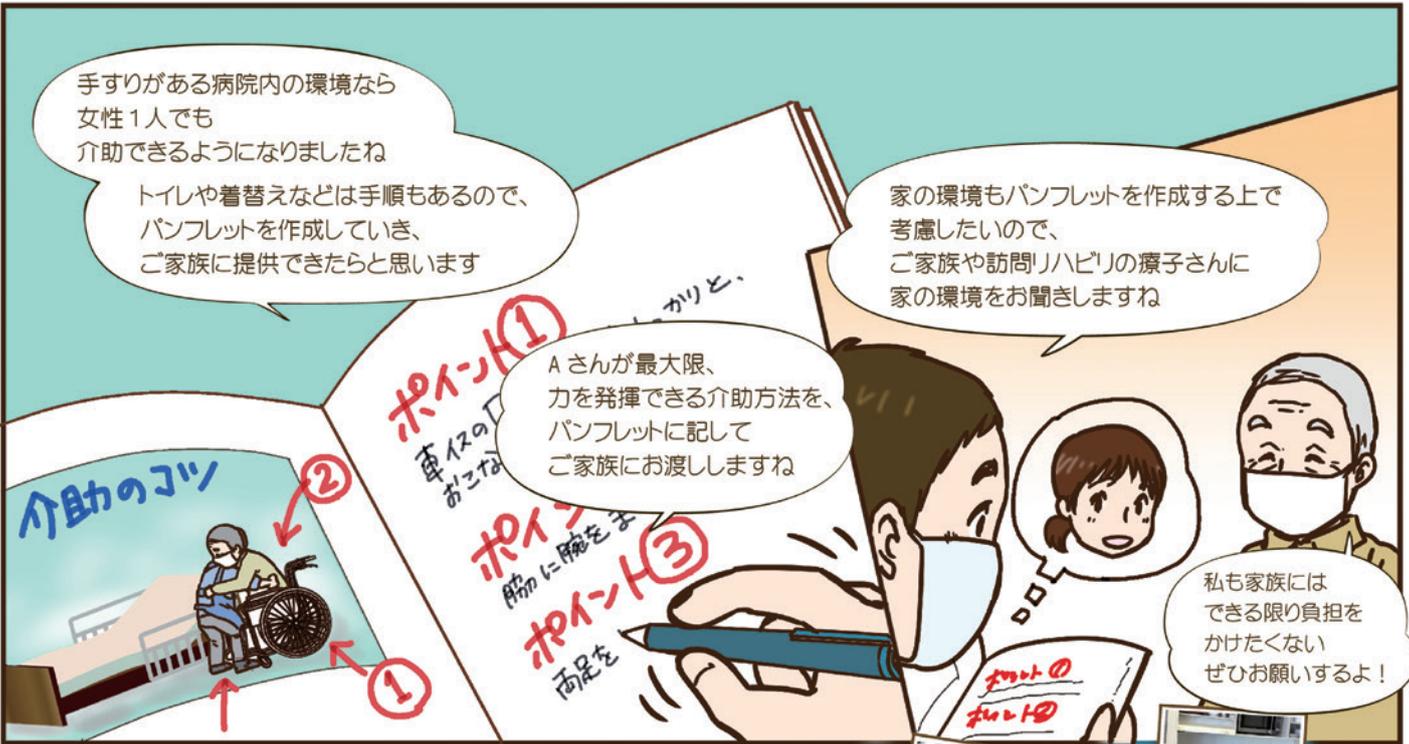
また、ご家族やお孫さんが足しげく面会に通い、A さんを励ました。A さんは「リハビリ」をより一層頑張ることができ、順調に回復していきました



Aさんが退院に向けて「リハビリ」を頑張っている最中、全世界で新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が流行し、入院している病院でも感染予防対策が始まりました



気持ちが少しずつ前向きになったAさんのリハビリは順調に進み、様々な動作が行えるようになりました
療太は、その様子をタブレットで動画に撮り、ご家族と共有することにしました



療太は息子夫婦から家の写真を提供していただきました
訪問リハビリを担当していた作業療法士の療子から、Aさんの自宅の状況について情報をもらいました



※注釈1

実際は、地域の感染状況や病院・施設等の判断により対応が異なります。

※注1
通常であれば、ケアマネジャーや福祉用具の業者の方々と自宅を訪問し、改修箇所や退院後のサービス内容について考えていくのですが、現在、コロナ禍なのでご自宅を訪問することができません

何とか感染対策をしようとして、みなさんで情報を共有し、退院に備えて考えたいですね

車いすレベルであれば、玄関からのアプローチと、トイレがネックになってくると思います

ご本人はトイレが心配のようです

私たちはご自宅に伺いますので、リモートで改修箇所を話し合いましょう



退院に向けて病院と自宅にそれぞれ関係者が集まり、リモート会議を開くことになりました

今日はよろしくお祈りします!!



自宅へ退院するに当たって住宅改修が必要な場所を一か所ずつ確認していくことにしました

まずは玄関から行ってみましょう!

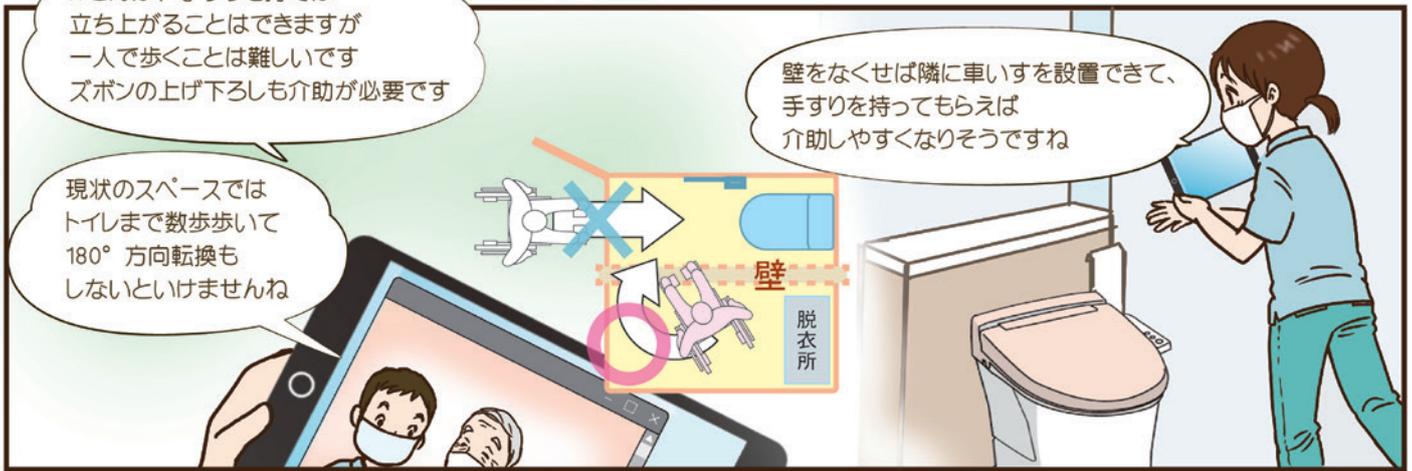
Aさんのお部屋に昇降機を設置すれば負担なく部屋に入れますね

このスペースがあれば昇降機が設置できますよ!

玄関のスペースと高さから考えるとスロープを設置すると、坂がやや急ですね。介助負担が大きくなるかもしれないです



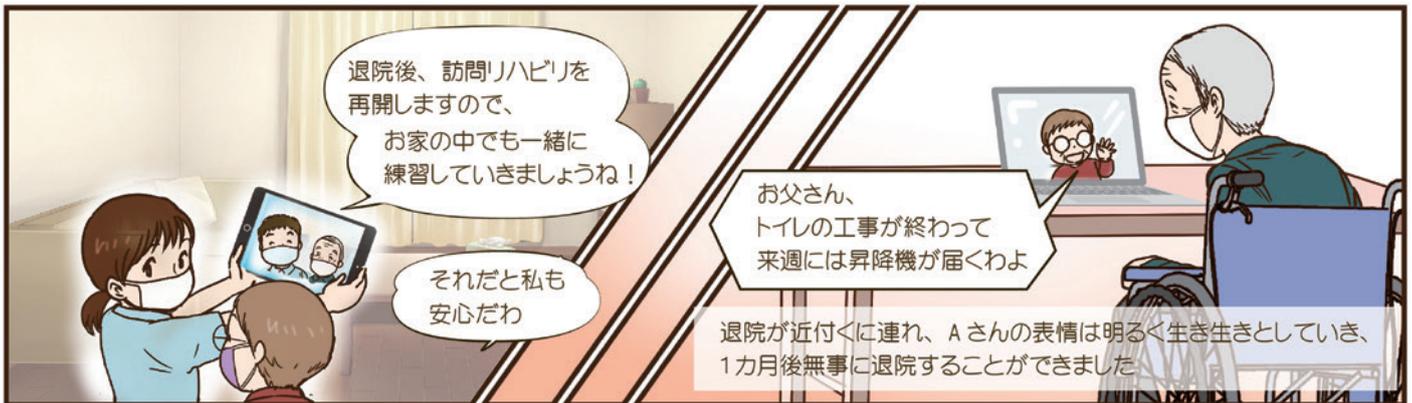
では、次はトイレをみてみましょう



Aさんは、手すりを持てば立ち上がることはできますが一人で歩くことは難しいです。ズボンの上げ下ろしも介助が必要です

壁をなくせば隣に車いすを設置できて、手すりを持ってもらえば介助しやすくなりそうですね

現状のスペースではトイレまで数歩歩いて180°方向転換も難しいといけませんね



退院後、訪問リハビリを再開しますので、お家の中でも一緒に練習していきましょうね!

それだと私も安心だわ

お父さん、トイレの工事が終わって来週には昇降機が届くわよ

退院が近づくに連れ、Aさんの表情は明るく生き生きとしていき、1カ月後無事に退院することができました

退院後の訪問リハビリ初回

Aさん、これからご自宅で一人でもできることが少しでも増えるよう頑張ってください

退院できて嬉しいですが、これからは本番ですね
頑張ります

療太さんが、車いすやトイレへの移乗など、介助のコツをパンフレットにしてくれていますので、参考にして一緒にやっていきましょう

パンフレットに書いてある介助方法を実際に療太さんに教えてもらえると心強いです
よろしくお願いします

こうして、Aさんの訪問リハビリが本格的に始まりました

そして1か月後…

Aさんはトイレで手すりを持って立ち上がることができるようになりました

奥さんはその間にズボンの上げ下ろしをしています

2人とも前向きに取り組んでいます
自宅内の生活はこのままだけ夫婦で協力合せて安全に行えます

今はお孫さんの野球観戦へ再び行くことを目標にリハビリに取り組んでいます

それは良かったです、夫婦愛ですね

数か月後…

日本は新型コロナウイルスが終息して…

もう一度、お孫さんの野球観戦へ行くことが夢だと言われていたので、よろしくお願いします

お父さん！
こっちこっち！

今日は
おじいちゃんの前で
格好良いところを
見せるぞ！

Playball!

新型コロナウイルス感染症により、人々の暮らしや日常の様々な営みが深刻な影響を受けるなかで、作業療法士はリモートでの面会や会議、パンフレット作成などの新しい生活様式に即したさまざまな方法を駆使して、地域生活をサポートします



オッティー

おわり

大分県社会福祉事業団

障害者支援施設 大分県のぞみ園

所在地：〒879-5516 由布市挾間町赤野339番地1
TEL 097-583-0350 FAX 097-583-0355

施設入所：84名

障害支援区分^{※1}：平均 5.56

リハビリ職員数：作業療法士2名、機能訓練士1名

関連施設：地域総合支援センター、大分県涇泉寮
大分県糸口学園、大分県糸口厚生園
大分県糸口第二厚生園、大分県糸口通勤寮
大分県なおみ園、大分県日田はぎの園
地域生活支援センターはぎの、八つ星の丘

※1 障害支援区分：1～6まであり、6に近いほうが必要な支援の度合いが高い。

施設紹介

大分県のぞみ園の本体である大分県社会福祉事業団は、県内で知的・精神・身体障がい関連の施設を10施設運営しています。当施設は旧身体障害者療護施設で、主に身体に障がいのある方が支援や看護を受けながら生活しています。現在、作業療法士2名で他の6施設も巡回しながらご利用者の生活支援を行っています。

リハビリテーション重点事項

園内の9割以上のご利用者は車椅子を利用しており、より快適に生活を送り、身体機能が維持できるよう福祉用具や車椅子の選定を重点的に取り組んでいます。車椅子を選定するにあたり、ご利用者の様子や介助をする際に必要なモジュール^{※2}を考慮した上で、車椅子業者を選定(オーダーメイド、モジュール型)し、多職種で意見を出し合ってお利用者にあう車椅子を選定・作成しています。

※2 モジュール：部品の組み換え、設定のこと

作業療法士の役割

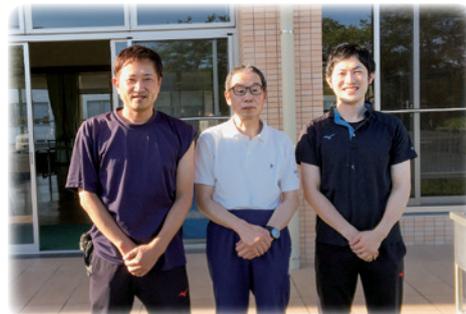
私たち作業療法士は、ご利用者の状態を確認しながら運動の内容や日課の提示を行います。また、作業療法士がご利用者全員に対し個別に対応できるのは週1回程度となるため、他職種への働きかけが重要となります。例えば支援員に対して、日常生活動作上での立位、歩行の見守り方法やご利用者一人ひとりに合わせた生活の工夫などを伝達しています。その他にも離床支援や日課活動、誤嚥予防のための取り組みなど役割は多岐にわたります。

作業療法士としての目標

障害福祉分野におけるリハビリテーションの重要性を、地域や行政にも深く認識されるように、試行錯誤を重ねながら日々の業務に励んでいます。知的、精神、身体障がいのある方たちに、より充実したリハビリテーションを提供できる環境が作られることを願っています。



施設外観



リハビリスタッフ



リハビリの様子



車椅子変更前



車椅子変更後



記事担当者/井上 宣彦





フレッシュマンインタビュー



一ノ宮脳神経外科病院 篠原 愛

出身養成校：福岡医健スポーツ専門学校



学生時代の写真



仕事風景



一ノ宮脳神経外科病院 外観

Q1. 作業療法士をめざしたきっかけ

私は、幼い頃から手芸や工作などのものづくりが好きでした。作業療法士はものづくりという作業を通してリハビリができると知り、とても魅力を感じ目指すようになりました。

Q2. 学生時代の思い出

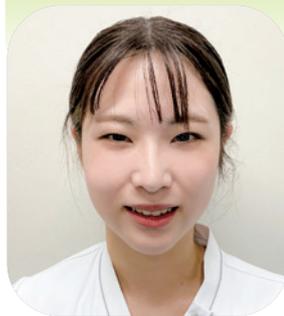
4年間すべてです。楽しいことも大変なことも同じくらいありましたが、クラスのみならずひとつずつ一緒に乗り越えて国家試験全員合格の目標も達成でき、すべてが良い思い出です。

Q3. コロナ禍での実習について

決まっていた実習先が突然変更・中止になるため、下調べや実習に向けての勉強がとても大変でした。また実習に行くことができて、入院患者様のリハビリが見学できないなど制限があり苦労しました。

Q4. どんな作業療法士になりたいか

リハビリをしながら患者様の笑顔を引き出せるような作業療法士になりたいと思っています。



大分中村病院 赤坂 南津実

出身養成校：藤華医療技術専門学校



学生時代の写真



仕事風景



大分中村病院 外観

Q1. 作業療法士をめざしたきっかけ

高校卒業後の進路に悩んだ際、叔母から作業療法士という職種があることを聞きました。その際に、作業療法一日体験に参加し、実際に働いている作業療法士さんを見て、普段目にする輪ゴムやビー玉、パズルなど身近にあるものでリハビリしていることに魅力を感じました。

Q2. 学生時代の思い出

国家試験の勉強です。勉強は大変でしたが、クラスの皆と話し合いをしながら、分からないところを教えあったことが今では良い思い出です。

Q3. コロナ禍での実習について

コロナ禍ということで、実習地が決まらず、学内実習になり、患者さんと接する時間が減ってしまったことが残念でした。

Q4. どんな作業療法士になりたいか

患者さんのニーズをしっかりと把握して的確な作業療法を提供できる作業療法士になりたいです。

その患者さんの「したい作業」や価値観を尊重し、患者さんと一緒になって、考えて、指導していける作業療法士になっていきたいです。

今年の4月から、作業療法士の第一歩を踏み出した、4名のフレッシュマンに話を聞きました。



婦巖会みえ病院 谷口 元基

出身養成校：国際医療福祉大学 福岡保健医療学部



学生時代の写真



仕事風景



婦巖会みえ病院 外観

Q1. 作業療法士をめざしたきっかけ

人と接することが好きであり、中学、高校時代からデイサービスのボランティアに参加していました。作業を通して身体だけでなく、心に対してもアプローチをする作業療法に興味を持ちました。オープンキャンパスに参加し、先輩方の言葉に惹かれたことがきっかけです。

Q2. 学生時代の思い出

趣味で行っているタロット占いです。同じ学部の子だけでなく他学科、他学年、教授など様々な方に行いました。そこで人物像に沿ったコミュニケーション、質問の仕方、表情の変化、言葉使いを学び、現在の作業療法に活かしています。

Q3. コロナ禍での実習について

病院での実習が1回のみで、残りは学内実習となり、症例検討などが架空の症例に対するものになりました。設定したリハビリプログラムに対する反応が得られず、根拠が明確でないアプローチが多くなり、リアルなイメージができず苦労しました。

Q4. どんな作業療法士になりたいか

身体だけでなく精神面のサポートができる作業療法士になりたいです。病前の生活の質を保ち、リハビリをして良かったと思っただけのサービスを提供していきたいです。



ケアガーデンおおつか 永尾 千文

出身養成校：大分リハビリテーション専門学校



学生時代の写真



仕事風景



ケアガーデンおおつか 外観

Q1. 作業療法士をめざしたきっかけ

高校時代の介護実習で、作業療法士の方が普段表情の変化が見られない利用者様に対して、笑顔を引き出しながら楽しそうにリハビリテーションを行う姿をみて、素敵な職業だと思い目指しました。

Q2. 学生時代の思い出

国家試験勉強です。勉強は難しく何度も心が折れそうになりましたが、仲間で支え合いながらひとつの目標に向かい努力できたことが、特に印象深い思い出です。

Q3. コロナ禍での実習について

コロナ禍で外出・面会などが制限され、ストレスを溜め込んでしまう方や、意欲の低下が見られる方が何名もいらっしゃいました。私の担当させていただいた利用者様も同様で、限られた空間の中でどのように気分転換を行い、モチベーションを保っていただくか悩み苦労しました。

Q4. どんな作業療法士になりたいか

利用者様に寄り添っていく中で、その人らしさを引き出しながら支援できる作業療法士になりたいと思っています。そして、地域で生活されている利用者様 御家族様の安心した生活の一助になりたいです。

第24回 大分県作業療法学会

テーマ「継往開来」～これまで、これからの作業療法士～

開催日時：令和3年3月14日(日) 10:00～16:00

開催方法：Zoomを使用したリモート開催

学 会 長：藤原 一（藤華医療技術専門学校）

内 容：①特別講演：「作業療法の明るい未来」

講 師：陣内 大輔 氏

国際医療福祉大学 保健医療学部作業療法学科 准教授

特別講演：「学生教育と卒後の育成」

講 師：古原 岳雄 氏

大分中村病院 リハビリテーション部顧問

②演題発表：一般演題(18演題)

口述発表(フレッシュマンセッション含む) 10演題

学生演題発表 8演題

③学会賞表彰式

学会賞：松本 昂平 氏（大分リハビリテーション病院）

「回復期脳血管患者に対してReoGo®-Jを自主訓練として運用した試み」

衛藤 雅浩 氏（加藤病院）

「退院して作業所で働きたい～意欲・自発性が低下した患者の退院までの歩み～」

参加者数：139名(会員103名、学生36名)。

今回で第24回を迎えた本学会は、新型コロナウイルスの感染防止対策として、当協会ですべてリモートでの実施となりました。

今回の特別講演は、「作業療法の明るい未来」と題し、国際医療福祉大学保健医療学部作業療法学科准教授である陣内大輔氏、「学生教育と卒後の育成」と題し、大分中村病院リハビリテーション部顧問である古原岳雄氏に、それぞれご講演いただきました。学生教育と卒後の育成について熱く語っていただき、これからの作業療法の将来を担う学生の臨床教育について改めて考える良い機会となりました。例年よりも演題数、参加人数ともに少ない学会となりましたが、一般演題ではリモートにも関わらず、積極的に議論が行われていました。本学会より初めての企画として行われた学生演題発表では、8名の学生より発表していただきました。参加者へのアンケートでは「とても良い取り組み」「学生の今後に繋がるのではないか」といった肯定的な意見を多くいただくこととなりました。

本学会は、先人の事業を受け継ぎ、発展させながら将来を開拓していく意味である「継往開来」がテーマでした。これまでの作業療法から、これからの新型コロナウイルス禍に対応した新しい作業療法のあり方を考えるきっかけとなった学会でした。



学会賞 衛藤 雅浩 氏（加藤病院）



学会賞 松本 昂平 氏（大分リハビリテーション病院）

学会長より

今回の学会は諸事情により初のウェブでの学会となりました。特別講演は教育をテーマに、臨床実習指導方法について、卒後の臨床教育の姿勢を講演いただきました。また、一般演題は初の試みとして学生演題を加えました。特別講演、一般演題ともに参加者から大変好評を得て成功に終わりました。ご協力、参加していただきありがとうございました。

第24回 大分県作業療法学会
学会長 藤原 一

「私のノート」

豊肥支部 支部長 後藤 宏子 (医療法人 雄仁会 加藤病院)



私は、作業療法士として二つのノートを大切にしています。

一つは、対象者さまを支援するにあたり、必要な知識や技術を身につけ、私自身がすべきことを記すノートです。経験年数や置かれた立場にともないページは増えていきますが、増やす努力も必要です。そのために、臨床の経験で積み重ねる学びとともに、研修会や協会の活動に意欲的に取り組み、ページを増やすように心がけています。

もう一つは、担当している対象者さま一人ひとりのノートです。そこには病気の経過や検査内容などを記します。さらに、作業療法士として『その人らしさ』のページを書き加えるように心がけています。その方のなじみのものや大切にしていること、これからやってみたいことや嬉しい言葉など、関わりを通して人それぞれのノートができていきます。

先日のことです。通所サービスを利用されているAさん、普段から口数が少なく他の方と交流が少ない方です。そのAさんが「コロナ禍で遠方に住む娘さんに会えない」と寂しがりながら、何十年も前の娘さんの成人式について話をしてくれました。すると、次の利用日に当時の写真を持参して、私たちに見せながら楽しく会話をしていました。ノートには「大切なもの:成人式の写真」と記しました。この様子を近く娘さんに報告させていただこうと考えています。もう一人の方、畜産農家だった認知症のBさん、ノートには「牛の話に反応が良い、特に子牛の生まれたときのこと」と記してあります。体操の合間に牛の話をする、体がよく動き、笑顔が増えます。

このように対象者さまの「ところが動く」ものをひとつでも多く引き出して、ページに加え、作業療法に織り込みながら支援していきたいと日々感じています。そして、もう一つのノートこそが『作業療法士らしさ』だと考えています。

明日も、一つ目のノートを持ち、一人ひとりに寄り添い、二つ目のノートに何を記すことができるのか…。これからも、二つのノートのページを増やしながらか「心豊かに作業療法」を提供していきたいと思ひます。

作業療法実践セミナーⅠ

開催日：令和2年12月11日(金)
 テーマ：就労支援の実際～法律や制度の利用の実際～
 内容：①就労支援に関する法律や制度の利用について
 ②就労支援事業の経験談
 ～“皆様が笑顔になれる”を合言葉に～
 講師：①釘宮慎太郎(萌葱の郷 なかよしひろば)
 ②中務欽章(株式会社しんせいの社)
 参加者：18名

作業療法実践セミナーⅡ

開催日：令和3年3月24日(水)
 テーマ：神経難病に対する作業療法
 ～発症初期と短時間型通所の関わり～
 内容：①脊髄小脳変性症のあれこれ。大学病院で何やってるの？
 ②短時間型通所リハでのパーキンソン病患者への関わり方
 講師：①高瀬良太(大分大学医学部附属病院)
 ②久保田直文(井野辺病院)
 参加者：20名

市町村等の発達支援に係る事業に資する人材育成研修会
～基礎編～

- (1) 発達支援に関する制度の概要と最近の動向
 開催日：令和2年8月30日(日)
 場所：オンライン、大分県作業療法協会ビル
 内容：発達支援に関する制度の概要と地域における
 作業療法士の役割
 講師：高森聖人(会長/一般社団法人虹色)
 参加者：22名
- (2) 子どもを評価するための基礎知識の整理
 ～粗大・協調運動の発達～
 開催日：令和2年8月30日(日)
 場所：オンライン、大分県作業療法協会ビル
 内容：定形運動発達および低緊張の子どもの運動発達について
 講師：後藤英子(常務理事/大分リハビリテーション専門学校)
 参加者：22名
- (3) 市町村の発達支援に係る事業の実際
 開催日：令和2年10月18日(日)
 場所：オンライン、大分県作業療法協会ビル
 内容：母子保健事業の概要と作業療法士の役割について
 (事業紹介)
 講師：永松謙一(博愛診療所)
 参加者：16名
- (4) 子どもを評価するための基礎知識の整理
 ～認知・心理・社会性の発達～
 開催日：令和2年10月18日(日)
 場所：オンライン、大分県作業療法協会ビル
 内容：認知・心理・社会性の発達についての講義
 講師：兒玉敬祐(恵の聖母の家)
 参加者：15名

市町村等の発達支援に係る事業に資する人材育成研修会
～応用編～

- (1) 乳幼児の評価演習と事例検討
 開催日：令和2年12月10日(木)
 内容：①乳幼児の支援に関する制度の概要
 ②簡易バッテリーを使用した事例評価について
 講師：①高森聖人(会長/一般社団法人虹色)
 ②浅倉恵子(常務理事/どんぐりの杜クリニック)
 参加者：13名
- (2) 乳幼児の評価演習と事例検討
 開催日：令和2年12月13日(日)
 場所：J:COMホルトホール大分2階 セミナールーム
 内容：演習および事例検討
 講師：浅倉恵子(常務理事/どんぐりの杜クリニック)、
 兒玉敬祐(恵の聖母の家)
 参加者：13名

- (3) 就学期の子どもの評価演習と事例検討
 開催日：令和3年1月13日(水)
 内容：①就学期の子どもに関わる制度の概要
 ②簡易チェックリストについて
 講師：①高森聖人(会長/一般社団法人虹色)
 ②永松謙一(博愛診療所)
 参加者：11名
- (4) 就学期の子どもの評価演習と事例検討
 開催日：令和3年1月17日(日)
 場所：J:COMホルトホール大分4階 409会議室
 内容：演習および事例検討
 講師：浅倉恵子(常務理事/どんぐりの杜クリニック)
 兒玉敬祐(恵の聖母の家)
 参加者：11名

新卒者研修会

開催日：令和2年10月11日(日)
 内容：大分県作業療法協会・大分県作業療法士連盟の紹介、
 大分県作業療法協会・大分県作業療法士連盟の部局等紹介、
 日本作業療法士協会生涯教育制度について
 参加者：22名(新卒者)
 共催：大分県作業療法士連盟

現職者共通研修

- (1) 現職者共通研修Ⅰ
 開催日：令和2年10月27日(火)
 内容：作業療法生涯教育概論
 講師：山崎翔太(明野中央病院)
 参加者：20名
- (2) 現職者共通研修Ⅱ
 開催日：令和2年11月24日(火)
 内容：作業療法における協業と後輩育成
 講師：春岡宏明(明野中央病院)
 参加者：19名
- (3) 現職者共通研修Ⅲ
 開催日：令和2年12月22日(火)
 内容：実践のための作業療法研究
 講師：彌田剛(藤華医療技術専門学校)
 参加者：25名
- (4) 現職者共通研修Ⅳ
 開催日：令和3年1月12日(火)
 内容：職業倫理
 講師：河野大輔(別府リハビリテーションセンター)
 参加者：19名
- (5) 現職者共通研修Ⅴ
 開催日：令和3年1月26日(火)
 内容：事例報告と事例研究
 講師：矢野高正(大分リハビリテーション専門学校)
 参加者：22名
- (6) 現職者共通研修Ⅵ
 開催日：令和3年2月16日(火)
 内容：日本と世界の作業療法の動向
 講師：高森聖人(会長/一般社団法人虹色)
 参加者：24名
- (7) 現職者共通研修Ⅶ
 開催日：令和3年3月2日(火)
 内容：保健・医療・福祉と地域支援
 講師：村田健太(湯布院病院)
 参加者：27名
- (8) 現職者共通研修Ⅷ
 開催日：令和3年3月9日(火)
 内容：作業療法の可能性
 講師：佐藤孝臣(副会長/株式会社ライフリー)
 参加者：19名



現職者選択研修

- (1)生活行為向上マネジメント基礎研修1
開催日：令和2年11月14日(土)
内容：MTDLP概論講義、演習、グループワーク
講師：佐藤友美(湯布院病院)、山本貴美(湯布院病院)
参加者：8名
- (2)生活行為向上マネジメント基礎研修2
開催日：令和3年1月30日(土)
内容：MTDLP概論講義、演習、グループワーク
講師：佐藤友美(湯布院病院)、山本貴美(湯布院病院)、
岩井中瑛梨(別府リハビリテーションセンター)
参加者：12名
- (3)身体障害領域の作業療法
開催日：令和3年2月28日(日)
内容：①回復期における転倒予防について
②急性期における転倒予防について
③生活期における転倒予防について
④環境因子から考える転倒予防について
講師：①浅倉秀剛(大分中村病院)
②石田聡(大分三愛メディカルセンター)
③花合達也(明和記念病院)
④松本奈穂(株式会社フロンティア)
参加者：16名

生活行為向上マネジメント実践者研修

- (1)生活行為向上マネジメント実践者研修Ⅰ
開催日：令和2年10月28日(水)
テーマ：「総合事業(短期集中通所C)における
MTDLPの活用事例」
事例発表者：平野政治(常務理事/明和記念病院)
参加者：7名
- (2)生活行為向上マネジメント実践者研修Ⅱ
開催日：令和3年1月15日(金)
内容：①MTDLP事例検討
②ミニレクチャー「MTDLPを現場で使用するコツ」
事例発表者：①佐々木聡子(湯布院病院)
講師：②山本貴美(湯布院病院)
参加者：9名
- (3)生活行為向上マネジメント実践者研修Ⅲ
開催日：令和3年3月26日(金)
内容：MTDLP実践事例の検討
発表者：定村直子(佐藤第一病院)、
荒金奈央子(別府リハビリテーションセンター)、
後藤春香(別府リハビリテーションセンター)、
川田雅与(大分豊寿苑)、
中原忍(別府リハビリテーションセンター)、
上田悠豊(大分大学医学部附属病院)
参加者：11名

生活行為向上マネジメントアドバンス研修

- 開催日：令和3年3月19日(金)
内容：①講義「『地域包括ケアシステム参画の手引き』を活用しよう」
②実践事例「短期集中通所Cで生活行為向上の視点を生かした一事例」
講師：①入口晴香(デイサービスセンター楽)
事例提供者：②大田繁(湯布院病院)
参加者：15名

厚生労働省指定「臨床実習指導者講習会」

- 開催日：A日程 令和2年11月28日(土)
令和2年11月29日(日)
令和2年12月5日(土)
令和2年12月6日(日)
B日程 令和3年3月20日(土)
令和3年3月21日(日)
参加者：A日程 47名
B日程 49名

認知症アップデート研修

- (1)認知症アップデート研修Ⅰ
開催日：令和2年10月9日(金)
内容：講義「作業療法士として押さえておきたい評価と介入のポイント」
講師：菊池由加理(大分記念病院)
池戸睦美(介護老人保健施設 南山園)
参加者：30名(会員29名、他職種1名)
- (2)認知症アップデート研修Ⅱ
開催日：令和3年2月17日(水)
内容：グループワーク「評価結果と支援方法を結び付けよう」
講師：七郎丸恵(コスモス病院)
ファシリテーター：佐藤暁(井野辺病院)
参加者：13名(会員13名)

地域包括ケアシステムにおけるスキルアップ研修

- (1)地域包括ケアシステムにおけるスキルアップ研修①
開催日：令和2年9月25日(金)
テーマ：地域ケア会議でのリハ専門職の役割を再考する
講師：帯刀麻見(大分市福祉保健部長寿福祉課 地域支援担当班)
事例提供者：伊東賢悟(佐伯市社会福祉協議会 作業療法士)
コーディネーター：佐藤暁(常務理事/井野辺病院)
参加者：16名(会員15名、他職種1名)
- (2)地域包括ケアシステムにおけるスキルアップ研修②
開催日：令和3年1月29日(金)
テーマ：地域ケア会議における作業療法士の役割を再考する
事例提供者：芦刈一也(湯布院病院)、矢野豊久(明和記念病院)
コーディネーター：村田健太(湯布院病院)
参加者：9名

人材育成道場 地域ケア会議助言者編

- 開催日：令和2年11月8日(日)
場所：大分県作業療法協会ビル
内容：①地域ケア会議において作業療法士が果たす役割
②グループディスカッション(事例を通して)
講師：①村田健太(湯布院病院)
②佐藤暁(常務理事/井野辺病院)
参加者：5名

地域ケア会議新規助言者研修会

- 開催日：令和3年3月12日(金)
内容：次年度に地域ケア会議へ出席する新規助言者の育成
講師：佐藤暁(常務理事/井野辺病院)
参加者：6名

地域ケア会議助言者情報交換会・交流会①

- 開催日：令和3年3月18日(木)
内容：大分市の地域ケア会議に派遣している助言者間での情報交換
参加者：8名

制度対策研修会

- (1)制度対策研修会Ⅰ
開催日：令和3年1月20日(水)
テーマ：「コロナ禍だから作業療法士にできること」
内容：①新型コロナウイルスに関する調査結果報告
②利用者支援への工夫に関する意見交換
③コロナ禍における作業療法士の役割について
コーディネーター：種子田秀仁(理事/たねだ内科)
参加者：20名
- (2)制度対策研修会Ⅱ
開催日：令和3年3月29日(月)
テーマ：～介護報酬改定・障害福祉サービス等報酬改定～
読み解き考えよう!作業療法士の役割
内容：①障害福祉サービス等報酬改定のポイント説明
②介護報酬改定のポイント説明
講師：①種子田秀仁(理事/たねだ内科)
②釘宮慎太郎(萌葱の郷 なかよしひろば)
参加者：35名

